

## 第 25 回日本ロービジョン学会学術総会のご紹介（ダイジェスト版）

国立障害者リハビリテーションセンター病院 第二診療部 清水 朋美

はじめに

2024 年 5 月 24 日（金）～26 日（日）の 3 日間、JR 浦和駅近くの埼玉会館で第 25 回日本ロービジョン学会学術総会が開催され、大会長を務めさせていただきます。学会テーマは「広い視野で連携力を高めよう！」です。ロービジョンケアにおける連携の重要性は周知の事実ですが、医療、福祉、教育の連携が専ら注目されてきました。時を経て、従来の範疇に止まらない大局的な視点での連携も近年は必要になってきています。この場をお借りしましてプログラム内容に関してご紹介いたします。

特別講演

ひとつは、桜美林大学教授の渡辺修一郎教授に「ロービジョンが高齢者の QOL に及ぼす影響」、もうひとつは国立障害者リハビリテーションセンターの芳賀信彦総長に「リハビリテーション医療における多職種連携」についてご講演いただきます。

渡辺教授は老年医学がご専門の医師ですが、今後はロービジョンケアとの連携も必要な領域ですし、リハビリテーション科医師でもある芳賀総長のお話は、ロービジョンケアでの多職種連携にとって大きな示唆をいただけたと思います。

日本ロービジョン学会設立 25 周年記念特別教育講演

日本ロービジョン学会は 2000 年に設立され、丁度 25 年目を迎えます。最近、日本ロービジョン学会の連携委員会が中心となり、ロービジョン連携手帳が作成されました。各都道府県の眼科医会を介して活用されているところも出てきています。連携委員会の長である勤医協札幌病院の永井春彦先生に「日本ロービジョン学会 25 年の歴史とロービジョン連携手帳の活用」をテーマにお話いただきます。

シンポジウム

### 1. リハビリテーション医療との連携

リハビリテーション医学のなかで、ロービジョンをはじめ眼科領域との連携について取り上げられることはほとんどありませんが、言語聴覚療法や作業療法の訓練時には、適正な屈折矯正が行われているのか等、眼科介入は欠かせないはずで、リハビリテーション医療の専門家を交えた貴重な意見交換の場になると思います。

### 2. パラスポーツとの連携

パラリンピックのような競技スポーツのみならず、健康増進につながる運動まで、実は守備範囲が広い領域です。パラスポーツでも連携が重要であると言われてはいますが、その構図はロービジョンケアと似ているところもあります。盲学校との連携、地域でロービジョン患者さんが運動するにはどうしたらよいか、眼科医から見た課題等、ロービジョンケアにつながる内容を吟味できる時間になると思います。

### 3. 産学・工学との連携

近年のテクノロジーは日進月歩に発展しており、ロービジョンの患者さんにとってその恩恵を受けることも増えてきています。ロービジョンケアに関わる者が産学・工学との接点を強化できれば、更に適したデバイスや仕組みが考案されるヒントになる可能性もあり、産学・工学から生み出される新たなテクノロジーはさらに有益なものになると思います。

### 4. 介護従事者との連携

超高齢社会を反映し、介護保険を利用している高齢視覚障害者は着実に増えています。しかし、介護従事者にとって、視覚障害、ロービジョンケアについて学ぶ機会はほぼないそうです。高齢のロービジョン患者さんのなかには、デイサービスに行っても、見える人ベースで進められる行事に参加できず、単独で時間を過ごすしかないと話す患者さんは案外多いものです。今後ますます連携が必要な領域だと思えます。

### 5. 産業保健との連携

就労世代のロービジョン患者さんにとって、就労継続できるか否かは大きな問題です。産業医がいる職場であっても、視覚障害に精通している産業医は少なく、雇用側としても対応に苦慮していることも珍しくありません。ロービジョン患者さんの unnecessary 離職を防ぐためには、大切な連携だと思えます。

## まなび塾

### 1. ロービジョンって何だろう？

残念ながら、一般のロービジョンに関する知名度はかなり低い状況です。実際には、全盲より、部分的には見えているけれど、十分に見えない人がほとんどで、視覚障害、ロービジョンに関する誤解が多くあります。今回は特別に、地元の小学4年生～6年生を対象に、ロービジョンについて学ぶ時間を設けています。

### 2. 発達障害を知ろう！

ロービジョンケアを必要とする患者さんのなかには、発達障害を合併している人が一定数います。ロービジョンケアに関わる者は、発達障害について学ぶ機会は決して多くないため、その障害特性や対応時のコツ等について、専門家の知見を交えながらともに学ぶ時間にできればと思っています。

### 3. 患者さんへの説明と同意を考えよう！

ロービジョンの患者さんにとって、眼科医からの説明はとても印象深く、どれだけ時間が経過しても忘れられるものではありません。単に「失明します、治りません、もう来なくていいです」といった類の言葉のみで説明が終わったという患者さんは残念ながら少なくありません。ロービジョンの患者さんに対する病状、病名や今後についての説明と同意はとても貴重であり、その後のロービジョンケアをいかに円滑に進められるかにもつながってきます。大切だけど案外学ぶ機会のない領域でもあり、是非ともに学べる時間になればと思います。

## その他

眼科関連学会では珍しい出展がいくつかあります。日本盲導犬協会による盲導犬歩行体験、株式会社PRIDISTが開発中の運転シミュレーター、電通によるロービジョンを可視化するビジュアルフィルターであるVISIONGRAM、ほか、弱視者ネットワーク、日本点字図書館、筑波技術大学、認定NPO法人視覚障害者の就労を支援する会(タートル)等、是非直接関係者と意見交換をしていただければと考えております。

学会最終日である5月26日(日)の閉会式終了後には、バリアフリー市民公開映画上映会と令和6年能登半島地震チャリティーコンサートも企画しております。

## 最後に

今回の学会では、学部を問いませんが学部学生(大学院生を除く)は事前参加申込だと一千元で参加可能です。オンデマンドでの視聴もできます。少しでも若いうちからロービジョンについて知っていただける好機だと思いますので、周囲に次世代を担う学部学生がおられましたら、是非ご紹介ください。事前参加登録期限は4月30日です。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

第25回日本ロービジョン学会学術総会の参加登録画面二次元バーコード

